

2026.09.27.

「神様と交渉」

旧約 創世記 18 章 16 ～ 33 節

新約 ヤコブの手紙 5 章 13 ～ 16 節

1. はじめに

9 月の最後の主の日ですので、旧約からみ言葉を受けます。今朝与えられている創世記 18 章 16 節以下には、アブラハムがソドムのために神様に執り成しをしたという出来事が記されています。18 章の 15 節までには、アブラハムのところに主が来られて、アブラハムがもてなした。その時主は「来年の今頃、妻サラに男の子が生まれているでしょう」(18:10)と告げるのですが、それを聞いたサラはひそかに笑いました。この時アブラハムは 99 歳、妻のサラは 89 歳でしたので、こんな年寄りに子供が生まれるはずないと思ったからです(18:12)。主は「なぜ笑ったのか」と、ひそかに笑ったサラを問い詰めます。サラは恐ろしくなって打ち消しましたけれど、主は「いや、あなたは確かに笑った」と告げます(18:13-15)。中々怖い所です。これが 21 章のイサクの誕生へとつながっていくわけです。イサクの誕生はとても重要な出来事ですけれど、それを予告するためだけに主はアブラハムのところに来られたのかと言いますと、そうではありませんでした。20:21 節には「18:20 主は言われた。『ソドムとゴモラの罪は非常に重い、と訴える叫びが実に大きい。 18:21 わたしは降って行き、彼らの行跡が、果たして、わたしに届いた叫びのとおりかどうか見て確かめよう。』」と告げられています。ソドムとゴモラという町は、旧約において最も罪がはびこった町であったと伝えられています。それは信仰において、行い・倫理の面において、神様がとても黙って見過ごしにすることが出来るレベルではないかどうか確かめに来たわけです。つまり、神様はソドムを滅ぼすつもりであることをアブラハムは知り、何とかソドムの町が滅ぼされないように神様に掛け合います。それが執り成しです。今朝与えられているみ言葉はこの執り成しの場面です。このアブラハムの執り成しの出来事から、三つのことを聞いていきたいと思っています。

2. 神様は裁かれる方です

第一に、神様は裁かれ方であるということです。神様は確かに愛のお方でありますけれど、同時に聖なるお方ですから、何でもかんでも赦して、その罪を問わないようなお方ではないということです。これはとても大事な事です。もし神様による裁きが無かったとすれば、救いもありません。何故なら、「救われる」ということは、「裁きから救われる」という意味だからです。ですから、裁きが無ければ、救いも必要としませんし、そもそも救いもありません。このことをしっかり受け止

めなければなりません。では、神様に滅ぼされるほどの罪とは何なのでしょう？ 13 章 13 節に「ソドムの住民は邪悪で、主に対して多くの罪を犯していた」と記されております。しかし、これだけでは具体的にどのような罪がソドムの町にはびこっていたのか、その具体的な状況までは良くわかりません。しかし、旧約全体を見回しますと神様が最もお嫌いになる罪が幾つか挙げられます。今申し仕上げる三つは覚えておかれると良いでしょう。第一に偶像礼拝、第二に性倫理の乱れ、第三に社会的弱者を守らないことです。更に言えば、このようなことが社会における指導者階級、つまり後の王や祭司達において蔓延していくとき、それは民全体にとって当たり前のことになってしまいます。そして、神様は怒りをあらわにされます。列王記などにはそのことが累々と述べられておりますが、その結果として何が起きたでしようか？ バビロン捕囚です。あれは神様の裁きとして神の民に下されたものでした。

勿論、これらのことは十戒違反なのではないかと言えばその通りなのですが、ここで偶像礼拝を第一に挙げるのは、これがはびこれば十戒に従おうとする志がそもそも失われてしまうわけですから、邪悪な罪が社会全体にはびこってしまうのも当然です。この偶像礼拝というものは、結局のところ自分にとって目に見える幸を与えるものなら、神ならぬものであっても何でもいから神様として拝むということです。真の神様を捨てる、あるいは神様に対しての信仰は上辺の形だけで、後ろでは真の神様を裏切り、他のものを信頼するということです。この偶像はたいてい五穀豊穡、あるいは富、そして健康といった目に見える幸を約束するものです。こう考えますと、現代の日本においても私どもは様々な偶像に取り囲まれていることが分かりますし、多くの人が偶像に心を奪われている事もわかります。そのような中であって私どもは天地を造られたただ独りの神、主イエス・キリストの父なる神様だけを神様として愛し、信頼し、お従いする者として生きる者として招かれています。

次に性倫理の乱れですが、性の問題は人間の欲・罪というものが分かりやすい形で現れるところです。これを抑えるということは、本当に難しいことです。特に若い人にとっては、本当に厳しい戦いを強いられることになるでしょう。しかし、人として神様のみ前に責任ある者として生きる時、これはとても大切です。十戒において「殺すな」の次に挙げられているのは「姦淫するな」です。

「盗むな」ではありません。日本人の感覚ですと、「殺すな」の次は「盗むな」になるのが自然のように思えるかもしれませんが、しかし十戒では「殺すな」の次は「姦淫するな」です。ちなみに、ヘブライ語では「偶像礼拝する」と「姦淫する」は全く同じ言葉です。翻訳する場合は、文脈の中でどちらかに訳しているだけです。十戒の中で最も大きな罪を上げろと言われれば「偶像礼拝」と「姦淫」となるでしょう。これは日本人にとっては中々ピンとこないところかもしれませんが、偶像礼拝も姦淫も裏切りなんですね。神様への裏切りが偶像礼拝であり、人に対しての裏切りが姦淫というものなのです。

さて、偶像礼拝と姦淫が社会に蔓延しますと、人は自分の欲を満たすことが一番だということに、何の疑問も抱かなくなってしまう。そこでしわ寄せを食らうのが、社会的弱者という事になります。これはいつの時代においても同じことです。やもめ、孤児、障害者といった人たちが軽んじられる社会ということになります。しかし、神様はそのような社会的不正義を「罪」として断罪します。そして、そのような社会を裁かすれます。

ソドムの町がどのような町であったのかは具体的には分かりませんが、今あげた三つの点、偶像礼拝・性倫理の乱れ・社会的弱者を軽んじるという社会的不正義が、全く悪いこととして認識されることなく、当然のこととして人々の心の中に、また社会の隅々にまではびこっていたのではないかと思います。神様はこれを断固として裁かれるわけです。

3. 執り成しの祈り

第二に、そのようなソドムの町に住む人たちにため、アブラハムは神様に執り成しをしました。アブラハムは、この時神様がソドムの町を滅ぼそうとされていることを知って、何とかそれを思い止めることが出来ないかと主なる神様と交渉を始めます。それが 23 節 b ～ 32 節に記されていることです。ソドムにはアブラムの甥のロトとその家族が住んでおりました。アブラハムとしては、何とかソドムが神様によって滅ぼされることを免れ、ロトとその一家が助かるようにと願ってのことだったのではないかと考えられます。

順に見てみると、23 節 b アブラハムは神様に対して「**まことにあなたは、正しい者を悪い者と一緒に滅ぼされるのですか。18:24 あの方に正しい者が五十人いるとしても、それでも滅ぼし、その五十人の正しい者のために、町をお赦しにはならないのですか。 18:25 正しい者を悪い者と一緒に殺し、正しい者を悪い者と同じ目に遭わせるようなことを、あなたがなさるはずはございません。全くありえないことです。全世界を裁くお方は、正義を行われるべきではありませんか。**」と告げます。アブラハムは神様の正義ということを正面から問います。「**まことにあなたは、正しい者を悪い者と一緒に滅ぼされるのですか。**」すごい言葉ですね。「神様、あなたは正しい方でしょう。だったら正しい者と悪い者を一緒に滅ぼすなんて、それは不公平ではないですか。正義ではありません。」と言うわけです。これは神様だって反論できません。そして、アブラハムは具体的に「**50 人の正しい者がいても、ソドムの町を滅ぼされますか**」と告げるわけです。神様は 26 節で「**もしソドムの町に正しい者が五十人いるならば、その者たちのために、町全部を赦そう。**」と答えました。しかし、アブラハムはここで終わりません。28 節「**もしかすると、五十人の正しい者に五人足りないかもしれません。それでもあなたは、五人足りないために、町のすべてを滅ぼされますか。**」つまり、45 人ならどうですかと言うわけです。神様は「**もし、四十五人いれば滅ぼさない。**」と答えます。アブラハムは、更に 40 人だったら、30 人だったら、20 人だったら、10 人だったらと繰

り返し、ついに 32 節「**その十人のためにわたしは滅ぼさない。**」との神様の約束を取り付けました。

このようなアブラハムのやり方に、多くの日本人は違和感を覚えるかもしれません。何か、市場で大根の値切り交渉をしているような感じで、こんな風に神様に対して相対するのは神様に対して失礼ではないか？そう感じる方もおられるかもしれません。しかし、これが聖書の告げる神様に相対する神の民に姿勢であり、「執り成しの祈り」なのです。私どもはここで、幾つものことを教えられます。

①神様を相手にして、簡単に妥協しない。あきらめないということ。私どもは最初の 50 人で OK してもらったのならば、それで良いではないかと思うでしょう。それを 45 人、40 人、30 人、20 人、10 人にまでしつこく願っていく。この祈りの粘り強さと言いますか、これは本当に見上げたものだと思わされます。

②神様はアブラハムの執り成しを受け入れているということです。神様はアブラハムに対して、50 人を認めたまでは良いとしても、45 人、40 人とする中で「いい加減にしろ」とアブラハムの申し出を退けても良かったでしょう。しかし、神様はそうはされませんでした。まるで、更にアブラハムが 30 人、20 人、10 人と申し出るのを喜んでいるかのようです。アブラハムが神様の正義と公平を信頼して食らいついてくるのを楽しんでいるかのようです。このことが次の第三の点につながっていきます。

ところで、このアブラハムの執り成しによって、ソドムの町は 10 人の正しい人がいれば滅ぼさないことになりましたが、その結果はどうだったのでしょうか？結果は 19 章に記されています。残念ながら、ソドムの町は滅ぼされることになってしまいました。ソダムには 10 人の正しい人もいなかったからです。しかし、アブラハムの甥であるロトとその家族は救われることになりました。

4. ただ独りの正しい者によって

さて、第三の点です。もし、アブラハムが 10 人でやめずにもう少し踏み込んでいたならばどうなっていたでしょうか。5 人正しい人がいれば、更に一人正しい人がいればソダムを滅ぼされますか？とアブラハムが続けたならばどうなっていたでしょうか。ここには記されていないのですから、考えるだけ無駄だということになるのでしょうか。しかし、聖書全体から考えるならば、私は最後の「一人の正しい人がいれば」とまでアブラハムが食い下がっていたのならば、神様はきっと「滅ぼさない」とお答えになられたらとを考えます。その理由は明確です。神様はたった独りの正しいお方、イエス・キリストの故にこの世界を今も滅ぼすことなく、保持し続けておられるからです。

この世界は偶像礼拝に満ち、社会には富さえ手に入れることが出来るならば何をしていても良いという風潮さえあります。性の倫理も崩れに崩れています。世界の指導者たちは自らの力を誇り、神様のみ前に謙遜になることを知りません。そして、人類はついに核爆弾というものさえ造ってしまい

ました。これを持つ者が最強であると考え、それを手に入れようと躍起になっている国も少なくありません。そして、世界中で弱い者、小さい者が虐げられ、戦火は世界中でおさまることを知りません。しかし、それでもこの世界はまだ滅びることなく保持されています。現在の世界の状況は、ソドムよりもまだからでしょうか？どうして世界は滅びを免れているのでしょうか？それはただ独りの正しいお方、主イエス・キリストがおられるからです。イエス様がこの世界のすべての罪の裁きを一身にお受けくださったからです。アブラハムの執り成しは、イエス様の十字架の執り成しを指し示しています。アブラハムのソドムの町のためになされた 10 人で終わってしまった執り成しは、全世界のためのたった独りの正しい人、イエス・キリストによる執り成しを指し示しています。この世界は、なぜ滅びを免れているかを知りません。しかし、私どもは知っています。イエス・キリストの十字架の執り成しの故です。

最初に申し上げましたように、神様は何者も裁かず、悪をそのままにしておかれる方ではありません。神様は必ず裁かれます。それは終末において明らかになります。この裁きは絶対であって、これを逃れられる者は一人もおりません。しかし、神様は誰も彼も裁きたいわけではありません。救いたいのです。みんなご自分が造られた者たちだからです。愛しておられるからです。しかし、裁くことを無しにすることは出来ません。神様は正しいお方であり、聖なるお方だからです。それで神様はご自身の愛する独り子を世に与えられました。イエス様は全ての人の罪の裁きを十字架の上でお受けになりました。イエス様は神の御子、聖なる神であられますので、どれほど大きな罪であっても、またどんな小さな罪であっても、何一つ見逃すことなく、一切の罪の裁きを引き受けてくださいました。だから、この世界は今でも滅んでおらず、私どもは裁きから救われました。ただ信仰によってです。ありがたいことです。しかし、終末の裁きが無くなったわけではありません。猶予期間が与えられました。神様は待っておられます。

5. 執り成しをする者として

では、アブラハムの執り成しの出来事のみ言葉を受けた私どもは、一体何を為していけばよいのでしょうか。イエス様の執り成しによって、既に自分は救われていることを信じ、感謝の中に生きる。悔い改めつつ、祈りをもって生きる。そういうことになりましょう。ヤコブ書 5:13.14「**あなたがたの中で苦しんでいる人は、祈りなさい。 5:14 あなたがたの中で病気の人は、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。**」とありますが、この「祈る」というのは、自分のために祈るだけではありません。自分のためにも祈りますけれど、他の人のためにも祈る。それが執り成しの祈りです。私どもはイエス様の十字架の執り成しによって救われたのですから、私ども執り成しの祈りを捧げる者として生きるということになるのではないのでしょうか。自分の願い事を叶えてもらおうとする祈りは、教わらずとも知っています。しかし、今朝私どもが

教えていただいた祈りは、私の為の祈りではありません。勿論、自分のために祈ってはいけないなどということはありませんし、自分の家族のためにも祈ったらよい。しかし、今朝教えられた祈りは、そのような狭い祈りではなく、どんどん私の外の人へと広がっていく祈りです。愛する教会の兄弟姉妹のこと、その家族、宮崎地区の諸教会のこと、ご近所の方々、どんどん広がっていきます。そして、祈るべき事は第一にその人の「救い」のためです。健康や様々な課題を知っているのであれば、そのことのためにも祈るでしょう。しかし、第一には「その人が救われますように」ということであり、「その人が救いの中に留まり続けられますように、健やかに信仰の歩みをなしていくことが出来ますように」ということです。そこにおいて大切なことも、あきらめない、粘り強く祈るということです。

6. 祈りの道具

この執り成しの祈りをしていくためには道具が必要です。勿論、何の道具がなくても祈ることは出来ます。しかし、何も無しで祈れる課題は、いいところ 5 つか 6 つでしょう。特に 60 才を超えたら 10 の課題なんて無理です。だって覚えていられないのですから。ですから、執り成し祈りをするべき人や課題を記した「祈りのカード」を用いることを私は勧めています。これがあれば、何百人のためにも祈れます。そこで大切なことは、あきらめない、粘り強く祈り続けていくということです。そして、神様はそれを喜んで受け入れくださっているということを確認して祈るということです。神様は独り子イエス様を与えるほどに、私どもを「救いたい」と望んでおられるのですから、私どもの執り成しの祈りが聞き届けられないことはありません。このことを信じて祈り続けることです。

お祈りいたします。

恵みと慈愛に富たもう、主イエス・キリストの父なる全能の神様。

あなた様は今朝、アブラハムの執り成しの出来事を通して、私どももまた執り成す者とされていることを知らされました。あきらめることなく、あなた様の救いの御業があの人、この人の上に為されていきますよう、この高鍋の地にあなた様の救いの御業が一日一日前進していくことを信じて、安んじて祈り続ける者であらしめてください。イエス様の十字架の犠牲によって、全ての罪を赦された私どもです。ありがとうございます。御国においては、全てが御心のままに完成され、私どもも罪なき者として復活します。その日を待ち望みつつ、喜びと感謝をもって祈りつつ歩む一週間であらしめてください。聖霊なる神様の導きを心から祈ります。

この祈りを私共の救い主、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン